

神奈川災害ボランティアネットワークの事務方を担当している高坂です。

神奈川における災害ボランティアの動きについて連絡します。

1. 3月11日(金)12日(土)の動きについて

3月11日(金)午後2時46分ごろ私は横浜駅西口にあるかながわ県民活動サポートセンターの10階で打ち合わせを行っていました。そして、大きな地震の揺れが3回連続してありこの建物も音を立てて揺れました。建物自体には損害はありませんでしたが階段部分で壁の塗装がパラパラと落ちていました。

その後、12日(土)13日(日)に開催が予定されていた「市民活動フェア」が2日とも中止と決まりました。

2. 「市民活動フェア」中止の連絡を受けて、8階のサポートセンター事務所を訪れて、神奈川県に災害対策本部が設置されたのか、そして設置されたとしたら同時に設置が決まっている「かながわ災害救援ボランティア支援センター」も設置されたのかと問い合わせを行いました。

そうすると職員からその両方とも設置されたとの回答がありましたが、「支援センター」の設置場所はどこかと聞いても回答がありませんでした。そこで、「サポートチーム」の2名がいるので何か手伝うものがあれば連絡して欲しいと言って10階に戻りました。

その後 植山副代表も新横浜の駅から歩いて県民センターに到着しました。

3. その後、夜になって県民センターの展示室と2階ホールが帰宅難民の方々に解放するところになり、その会場作りを8名で手伝いました。展示室と2階ホールにイスと机を並べ受け入れを開始しましたが、約500名の方々が来られました。電車の復旧に合わせて動きがありましたが徹夜された方々も大勢おられました。徹夜された方々にはイスに座って一夜を過ごされた方が多くありました。12日(土)の朝になり水と非常食のパンを希望者に配布し京浜急行等の復旧などがあり避難所を閉鎖することになりました。その後展示室と2階ホールの清掃を行い解散しました。

4. 一方、植山副代表のパソコンを使用して、緊急に12日(土)午前10時にサポートセンター4階の防災準備室に神奈川災害ボランティアネットワークを中心とした関係者に集ってもらい今後の活動について打ち合わせを行うことになりました。

緊急の集合要請にもかかわらず13名の方々が集ってもらい今後の活動方針について論議し以下のことを決めました。

. 今回の東北地方太平洋沖地震は被災地が広範囲にわたり被災地支援の活動も広範囲・長期化が予想される。従って、支援の被災地の対象も全国の災害ボランティア団体で調整し担当箇所を決めていことが考えられる。先発して現地に入っている全国の災害ボランティアのエキスパートと連絡と情報を取り合い、オール神奈川として対応出来るようにしていくこととする。

. この2~3日間は人命救助に全力をあげて地元で警察、消防、自衛隊、地元民等で活動が集中して行われる時期であり、この活動を妨害してはならない。従って、義援金や支援物資の募集の開始をオール神奈川で行えるように準備すると共に、今後の支援活動の準備体制を早急に確立すべきである。

. この2~3日は神奈川県内の被害や東北地方の被災地等の情報を収集すると共に、神奈川県内の災害ボランティア関係者や機関に対するそれらの情報の提供を行うものとする。このことを通して神奈川県内の災害ボランティアの情報網の確立をめざしていくこととする。

. これらの活動を支えるために神奈川災害ボランティアネットワークの事務局体制を強化

していくものとする。今回の東北地方太平洋沖地震の被災地への支援活動は1～2年間の長期にわたると思われるので、通常の神奈川災害ボランティアネットワークの事務局機能と別に専門の支援担当事務局等も考えていくものとする。

.この支援活動を有効に展開するために神奈川県社会福祉協議会や神奈川県安全防災局との関係を強化し情報の交流などを目指すものとする。

.今回の東北地方太平洋沖地震に対する支援活動等を検討するために3月14日(月)午後6時30分よりかながわ県民センター11階パートナーシップルームで神奈川災害ボランティアネットワーク拡大事務局会議を開催するものとする。

以上